

解答

一

問1 a エ・ク b ア・ウ c イ・カ

問2 オ

問3 ア・エ

問4 人間の身体には非常に多くの生物が棲みついているので、人間は一人で生まれ、一人で死ぬという考えは誤りであるということ。

問5 ウ

問6 ウ

問7 ア

問8 ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ○

二

問1 A エ B ア

問2 エ

問3 イ ↓ カ ↓ ウ ↓ ア ↓ エ

問4 経営のことなど考えてはおらず、生きがいである本を心ゆくまで読んでいたがために開いている店。

問5 ウ

問6 オ

問7 イ

三

① 快方 ② 沿岸 ③ 遊覧 ④ 牧歌

⑤ 無二 ⑥ 潮時 ⑦ 創始 ⑧ 祝賀

解説

一

出典は、養老孟司「いちばん大事なこと」。

問4 まず、傍線部の「それ」という指示語の中身を確定させましょう。傍線部の直前に、「人間は一人で生まれて、一人で死ぬ。ときどきそう威張る人があるが」とあるので、太字の部分が指示内容とわかります。この指示内容が「生物学的に」「間違い」であるとはどういうことか。問3 エがヒントになります。「人間の身体には細菌など一億以上の生物が棲みついている」（死んで火葬にでもすれば、それらも共に死ぬことになります）人間の身体は生物学的に一個の生き物とは言えないのです。

傍線部の次の段落、「そればかりではない」と以下は、傍線2「身体が自然だという説明」の一部ですので、ここでは解答に含めません（問3 ア）。

二

出典は、角田光代「ミツザワ書店」。

問4 「本文全体を読んで」とあるのに注意しましょう。適切な箇所を探して組み合わせるだけでは、正解できません。おばあさんについての情報は、お孫さんのセリフを通じて語られますので、彼女の言葉に注目しましょう。まず傍線部の周囲「もともと儲かるような店じゃなかったし、祖母の道楽みたいなものでしたわね」。次に「祖母は本当に本を読むのが」以下と「私。子どものころおばあちゃんに訊いたことがあるの。」以下。これらのセリフから、店主のおばあさんは①お金儲けのために店を開いていたのではなく、②彼女にとって「世界への扉」（問6）である本を片っ端から読むことを生きがいにしていて、ことが読み取れます。